

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科

国語 科目 論理国語

教科 国語 科目 論理国語

単位数 2 単位

対象学年組 第 2 学年 1 組～ 7 組

使用教科書 （ 「論理国語」筑摩書房 ）

教科 国語 の目標

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うとする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関りの中で伝え合う力を高めようとする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨こうとする。

科目 論理国語 の目標

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、他者との関りの中で伝え合う力を高められている。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学 期	「一〇〇パーセントは正しくない科学」 【知識及び技能】 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量をふやす。推論の仕方について理解を深め使う。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「一〇〇パーセントは正しくない科学」 人と世界を結ぶことばの働きを理解する ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「一〇〇パーセントは正しくない科学」 【知識及び技能】 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語句の量をふやしている。推論の仕方について理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 内容や構成、論理の展開などを的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	5
	「地図の想像力」 【知識及び技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「地図の想像力」 人と世界を結ぶことばの働きを理解する ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「地図の想像力」 【知識及び技能】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○	○	1
	「物語るという欲望」 【知識及び技能】 文や文章の効果的な接続の仕方について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価する。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「物語るという欲望」 ことばによって語るという行為の意味を考える ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「物語るという欲望」 【知識及び技能】 文や文章の効果的な接続の仕方について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、多面的・多角的な視点から評価している。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	9
	定期考査						○	○		1
2 学 期	「ファンタジーワールドの誕生」 【知識及び技能】 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 人間、社会、自然について、文章の内容や解釈を異なる価値観と結びつけて、新たな視点から自分の考えを深める。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 「ファンタジーワールドの誕生」 多面的な視点から文章を捉える 偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える ・教材 教科書 国語便覧 「現代文キーワード読解」 ・一人1台端末の活用 等 生徒間の意見の共有・検討を一人1台端末を活用しておこなう			○ ○	「ファンタジーワールドの誕生」【知識及び技能】 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。 【思考力、判断力、表現力等】 人間、社会、自然について、文章の内容や解釈を異なる価値観と結びつけて、新たな視点から自分の考えを深めている。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	8

[illegible]

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 発展言語文化 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域		評価規準	知	思	態	配当 時数	
			話・聞	書・読						
1 学 期	『伊勢物語』『あづま下り』 【知識・技能】 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 【思考力・判断力・表現力】 ・「読むこと」において、作品の内容や形式について、批評したり討論したりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 人との交わり ○古人の生活や文化について理解を深める。 ○古人にとつての歌の役割をとらえる。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等		○	○		○	○	○	7
	『唐宋八家文読本』『雑説』 【知識・技能】 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使う。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとする。	・指導事項 文学と社会 ○寓意を含む文章や、当時の世相を映した物語を読み、社会と文学との関りを考える。 ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「精選漢文」 補助教材プリント ・一人1台端末の活用 等		○	○		○	○	○	6
	定期考查							○	○	○

	「山月記」中島敦 【知識・技能】 - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 - 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとする。	・指導事項 近代の小説(一) ○登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。 ・教材 「近現代文学コレクション」 「カラー版新国語便覧」 補助教材プリント 一人1台端末の活用 等		○	○	【知識・技能】 - 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 - 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 【思考・判断・表現】 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉をとおして他者や社会に意欲的に関わろうとしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1
2 学 期	『平家物語』『未曾の最後』 【知識・技能】 - 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 - 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 【思考力・判断力・表現力】 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 語り継がれる歴史 ○文体や表現によって、読者が受ける印象の違いをとらえる ○歴史的な記録と、語り伝えられる物語との違いをとらえる ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「完全マスター古典文法」 「重要古文単語315」 補助教材プリント 一人1台端末の活用 等		○	○	【知識・技能】 - 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 - 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	12
	定期考査						○	○	○	1
	『十八史略』『臥薪嘗胆』 【知識・技能】 - 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 - 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえる。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈する。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	・指導事項 現代に生きる言葉 ○故事成語の意味や背景について理解を深める ○作者が話に込めた意図を読み取る ・教材 教科書 「カラー版新国語便覧」 「精選漢文」 補助教材プリント 一人1台端末の活用 等		○	○	【知識・技能】 - 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 - 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 【思考力・判断力・表現力】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	○	○	○	7

[illegible]

年間授業計画 様式例

府中 高等学校 令和7年度(2学年用) 教科		地理歴史	科目	日本史探究
教科：地理歴史	科目：日本史探究	単位数：3	単位	
対象学年組：第2学年 必修選択(1, 2, 5, 6, 7組)				
使用教科書：(詳説日本史探究 山川出版社)				
教科：地理歴史	の目標：			

年間授業計画 様式例

府中 高等学校 令和7年度(2学年用) 教科 地理歴史 科目 日本史探究

教 科： 地理歴史 科 目： 日本史探究

单位数： 3 单位

対象学年組：第 2 学年 必修選択(1, 2, 5, 6, 7組)

使用教科書：（ 詳説日本史探究 山川出版社 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される主権者としての自覚を深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される主権者としての自覚を深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
原始・古代の日本と東アジア 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化，弥生文化の成立などを基に，黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成，原始社会の特色を理解する 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり，中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係，狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して，環境への適応と文化の形成について，多面的・多角的に考察し，表現する地方の諸勢力の成長と影響，東アジアとの関係の変化，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，古代の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い， 原始・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し，総合的に捉えて理解できるようにする	原始・古代の日本と東アジア 【知識及び技能】 旧石器文化から縄文文化への変化，弥生文化の成立などを基に，黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成，原始社会の特色を理解する 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 自然環境と人間の生活との関わり，中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係，狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して，環境への適応と文化の形成について，多面的・多角的に考察し，表現する地方の諸勢力の成長と影響，東アジアとの関係の変化，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，古代の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	○	○	○	11
			○	○	○	11

1 学 期							
	定期考査			○	○	○	1
	古代の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 国家の形成と古墳文化，律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に，原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること。 貴族政治の展開，平安期の文化，地方支配の変化や武士の出現などを基に，律令体制の再編と変容，古代の社会と文化の変容を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 中国大陸・朝鮮半島との関係，隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して，主題を設定し，小国の形成と連合，古代の国家の形成の過程について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。 地方の諸勢力の成長と影響，東アジアとの関係の変化，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，古代の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	歴史資料の特性を踏まえ，資料を通して読み取れる情報から，原始・古代の特色について多面的・多角的に考察する 小国の形成と連合，古代の国家の形成の過程について考察する	古代の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 国家の形成と古墳文化，律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に，原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解すること。 貴族政治の展開，平安期の文化，地方支配の変化や武士の出現などを基に，律令体制の再編と変容，古代の社会と文化の変容を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 中国大陸・朝鮮半島との関係，隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して，主題を設定し，小国の形成と連合，古代の国家の形成の過程について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。 地方の諸勢力の成長と影響，東アジアとの関係の変化，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，古代の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	○	○	○	11
				○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	中世への転換と歴史的環境 歴史資料と中世の展望 【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出，土地支配の変容などを基に，古代から中世への時代の転換を理解すること。 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化，東アジアとの関わりなどに着目して，古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること。 歴史資料の特性を踏まえ，資料を通して読み取れる情報から，中世の特色について多面的・多角的に考察し，仮説を表現すること。	平安時代末から戦国時代までを扱い，中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し，総合的に捉えて理解できるようにする	中世への転換と歴史的環境 歴史資料と中世の展望 【知識及び技能】 貴族政治の変容と武士の政治進出，土地支配の変容などを基に，古代から中世への時代の転換を理解すること。 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に，資料から歴史に関わる情報を収集し，読み取る技能を身に付けること。 【思考力、判断力、表現力等】 権力の主体の変化，東アジアとの関わりなどに着目して，古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し，表現すること。 歴史資料の特性を踏まえ，資料を通して読み取れる情報から，中世の特色について多面的・多角的に考察し，仮説を表現すること。	○	○	○	11

2 学 期						○	○	○	11
	定期考査					○	○	○	1
	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 公武関係の変化，宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。	古代から中世への転換の理解や時代を通観する問いで表現した中世を展望する仮説を踏まえ，資料を扱う技能を活用し，中世の国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期なを多面的・多角的に考察し，根拠を示して表現する学習を通じて，中世がどのような時代であったかを理解するとともに，思考力，判断力，表現力等の育成を図る	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の成立と展開，産業の発達，宗教や文化の展開などを基に，武家政権の伸張，社会や文化の特色を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 公武関係の変化，宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の展開について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。			○	○	○	11
	定期考査					○	○	○	1
3 学 期	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の変容，日明貿易の展開と琉球王国の成立，村落や都市の自立，多様な文化の形成や融合などを基に，地域権力の成長，社会の変容と文化の特色を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 社会や経済の変化とその影響，東アジアの国際情勢の変化とその影響，地域の多様性，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の変容について，事象の意味や意	古代から中世への転換の理解や時代を通観する問いで表現した中世を展望する仮説を踏まえ，資料を扱う技能を活用し，中世の国家や社会の展開について，事象の意味や意義，関係性，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期なを多面的・多角的に考察し，根拠を示して表現する学習を通じて，中世がどのような時代であったかを理解するとともに，思考力，判断力，表現力等の育成を図る	中世の国家・社会の展望と画期 【知識及び技能】 武家政権の変容，日明貿易の展開と琉球王国の成立，村落や都市の自立，多様な文化の形成や融合などを基に，地域権力の成長，社会の変容と文化の特色を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】 社会や経済の変化とその影響，東アジアの国際情勢の変化とその影響，地域の多様性，社会の変化と文化との関係などに着目して，主題を設定し，中世の国家・社会の変容について，事象の意味や意義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現するこ			○	○	○	11

期	義，関係性などを多面的・多角的に考察し，歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現すること。		と。				
	定期考査・解説			○	○	○	2
							合計 105

年間授業計画 様式例									
高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科					地理歴史		科目 世界史基礎		
教 科： 地理歴史		科 目： 世界史基礎			単位数： 2 単位				
対象学年組：第 2 学年 1, 2, 5, 6, 7組									
使用教科書：（ 詳説世界史 世界史探究 ）									
教科 地理歴史		の目標：							

【知 識 及 び 技 能】 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 地理や歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 地理や歴史に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目	世界史基礎	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	地球環境からみる人類の歴史 【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現する。	人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1 台端末の活用 パワーポイント作成	地球環境からみる人類の歴史 【知識及び技能】 人類の誕生と地球規模での拡散・移動を基に、人類の歴史と地球環境との関わりを理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 諸事象を捉えるための時間の尺度や、諸事象の空間的な広がりに着目し、主題を設定し、地球の歴史における人類の歴史の位置と人類の特性を考察し、表現できている。	○	○		6
	古代文明の歴史的特質 【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付ける。 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現する 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気付く。	生業、身分・階級、王権、宗教、文化・思想などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、生きる力を身に付けることができるよう指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1 台端末の活用 パワーポイント作成	古代文明の歴史的特質 【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付ける。 オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現できている 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の歴史的特質を構造的に捉えることができることに気づいている。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	諸地域の歴史的特質 【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国	秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国	諸地域の歴史的特質 【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成				

	秦・漢と近世国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについて諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現する 定期考査	秦・漢と近世国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	秦・漢と近世国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについて諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現できている 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。	○	○	○	15
				○	○		1
2 学 期	諸地域の歴史的特質 【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについて諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現する 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気付く。 定期考査	秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	諸地域の歴史的特質 【知識及び技能】 秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向、仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家、西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教とイスラームの成立とそれらを基盤とした国家の形成を基に諸地域の歴史的特質を理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 東アジアと中央ユーラシア、南アジアと東南アジア、西アジアと地中海周辺のそれぞれについて諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、を多面的・多角的に考察し、表現できている。 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。	○	○	○	15
				○	○		1
	【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けること。 【思考力・判断力・表現力】 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	交易の拡大、都市の発達、国家体制の変化、宗教や科学・技術及び文化・思想の伝播などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して指導する。	【知識及び技能】 資料から情報を読み取ったりまとめる技能を身に付けること。 【思考力・判断力・表現力】 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現できている。	○	○		5
3 学 期	結び付くユーラシアと諸地域 【知識及び技能】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現する 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気付く。 定期考査	西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に指導する。 ・教科書、図録、用語集の活用 ・一人1台端末の活用 パワーポイント作成	結び付くユーラシアと諸地域 【知識及び技能】 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現できている 【学びに向かう力、人間性等】 国家と宗教の関係や、文化や宗教が人々の暮らしに与えた影響、異なる宗教の共存に気づいている。	○	○	○	10
				○	○		1
							合計

年間授業計画 様式例

府中 高等学校 令和7年度

教科 公民

公民 科目 公共

教 科： 公民 科 目： 公共

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

単位数： 2 単位

使用教科書： 『高等学校 公共』（第一学習社）

教科 公民 の目標：

【知識及び技能】 社会的な事象を理解する上での基礎的な知識および資料を読み取る技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 社会的課題に対して、資料やデータに基づき、自分なりの考えを持つ力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 自分とは立場や環境が異なる人々の視点を想像しつつ、社会的な課題について考える姿勢を身に付ける。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の社会における社会制度などの背景にある思想や理念を理解した上で、歴史的な資料や法的な文章、経済指標などのデータを正確に読み取る力を身に付ける。	現代の社会的課題に対して、法的な文章や経済指標、過去の思想家の主張などを踏まえた上で自分なりの意見を持つことができる。	社会的な課題に直面している人々の立場に立ち、多角的・多面的な視点で物事を捉えようとする姿勢を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 公共的な空間をつくる私たち 社会に生きる私たち 個人の尊厳と自主・自律 多様性と共通性 【知識及び技能】 過去の哲学者や心理学者の主張を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自分自身の感覚と提示された概念の関連性を表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・青年期の成立および解釈を通して、現代社会における青年期の意義を理解する。 ・実体験を通し、青年期における心理的な変化を考え、青年期における課題の重要性について理解する。 ・青年期における自己形成の過程を理解し、哲学者の視点を通して「自分らしさ」について考える。	【知識・技能】 過去の哲学者や心理学の主張を理解する。 【思考・判断・表現】 自分自身の感覚と提示された概念の関連性を表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 人間としてのあり方生き方についての探求 【知識及び技能】 過去の哲学者の思想を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思想がどのように現代の社会に反映されているかを考え、具体例を例示することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・ドイツ観念論の思想を通し、多様な「自由」の定義について考察する。 ・社会における「善」のあり方を考えると共に、現代社会の社会制度の背景となる思想を理解する。	【知識・技能】 過去の哲学者の思想を理解する。 【思考・判断・表現】 思想がどのように現代の社会に反映されているかを考え、具体例を例示することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	5
	定期考査			○	○	○	2
	現代の国家と民主政治 人権保障の発展と現代社会 【知識及び技能】 人権の概念が確立されていった歴史を資料を通して理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 思想家の主張について、比較検討をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・民主政治の誕生の歴史を通して、人権の意義や国家のあり方について考える。 ・社会契約説の思想を理解し、現代の政治制度とのつながりについて考える。 ・歴史的な文書を通し、人権の発展について考え、現代における国際化した人権の課題について考える。	【知識・技能】 人権の概念が確立されていった歴史を資料を通して理解する。 【思考・判断・表現】 思想家の主張について、比較検討をすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6
	日本国憲法と国民生活 基本的人権の保障 人権の広がり 選挙と政党 【知識及び技能】 判例を通して、人権の意義を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 判例などの資料から人権保障の考え方を読み取ることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・基本的人権の保障について、判例や事例を通して理解する。 ・「新しい人権」をめぐる議論について考える。 ・日本の選挙の仕組みと課題、その課題が生まれた背景について理解する。	【知識・技能】 判例を通して、人権の意義を理解する。 【思考・判断・表現】 判例などの資料から人権保障の考え方を読み取ることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	7

	定期考査				○	○	○	2
2 学 期	日本国憲法と国民生活 平和主義と日本の安全 【知識及び技能】 9条の理念および日本の平和安全法制の現状を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 日本の平和主義と実際の日本の平和法制における課題について意見を持つことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・9条の解釈をめぐる議論を通して、日本の平和主義について考える。 ・自衛隊のあり方について、過去の事例を通して考える。	【知識・技能】 9条の理念および日本の平和安全法制の現状を理解する。 【思考・判断・表現】 日本の平和主義と実際の日本の平和法制における課題について意見を持つことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6	
	現代の経済社会と政府の役割 経済社会の形成と変容 市場のしくみ 現代の企業 経済成長と景気変動 【知識及び技能】 経済の主体や仕組みなどを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 与えられたデータを読み取り、どのような事実を示しているのかを判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・市場における価格決定の仕組みと市場の失敗の事例を理解する。 ・現代の企業のあり方を考えた上で、投資の役割について考える。 ・経済成長と景気変動の仕組みの理解し、現在の日本の経済について考える。	【知識・技能】 経済の主体や仕組みなどを理解する。 【思考・判断・表現】 与えられたデータを読み取り、どのような事実を示しているのかを判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	7	
	定期考査			○	○	○	2	
	現代の経済社会と政府の役割 政府の役割と財政・租税 金融機関の働き 【知識及び技能】 経済における政府と金融機関の役割を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 財政政策および金融政策の仕組みを理解した上で、その効果について考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・財政が持つ機能と目的を理解した上で、現在、政府が行っている政策の意味について考える。 ・金融機関の役割を理解した上で、日本銀行が行う金融政策の意味を考える。	【知識・技能】 経済における政府と金融機関の役割を理解する。 【思考・判断・表現】 財政政策および金融政策の仕組みを理解した上で、その効果について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	8	
	経済活動のあり方と国民福祉 社会保障 消費者の権利 【知識及び技能】 現代社会における社会制度の歴史を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会の社会制度の抱える課題について、その対策を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	・社会保障の意義と仕組みについて理解する。 ・日本が抱える社会保障制度の課題について理解し、今後のあり方について考える。 ・消費者の権利について、現代の課題を考える。	【知識・技能】 現代社会における社会制度の歴史を理解する。 【思考・判断・表現】 現代社会の社会制度の抱える課題について、その対策を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	6	
定期考査			○	○	○	2		
	経済活動のあり方と国民福祉 社会保障 消費者の権利 【知識及び技能】	・社会保障の意義と仕組みについて理解する。 ・日本が抱える社会保障制度の課題	【知識・技能】 現代社会における社会制度の歴史を理解する。 【思考・判断・表現】 現代社会の社会制度の抱える課題について、その対					

3 学 期	現代社会における社会制度の歴史を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会の社会制度の抱える課題について、その対策を考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	題について理解し、今後のめり力について考える。 ・消費者の権利について、現代の課題を考える。	束を考えることかである。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者の意見を傾聴し、多様な立場があることを理解する。	○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	2
							合計 70

年間授業計画 様式例				科目 数学Ⅱ	
高等学校 令和7年度		教科	数学	科目 数学Ⅱ	
教科 数学		科目 数学Ⅱ		単位数 4 単位	
対象学年組 第2学年 1組～7組					
使用教科書 (NEXT 数学Ⅱ【数研出版】)					
教科 数学		の目標			
【知識及び技能】		数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。			
【思考力、判断力、表現力等】		数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。			
【学びに向かう力、人間性等】		積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。			
科目 数学Ⅱ		の目標			
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】	
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	数の範囲を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の計算ができるようにする。また、複素数を用いて、1次方程式やその解についてより一般的に考察できるようにする。	第2章 第1節 複素数と2次方程式の解	【知識・技能】 ◎複素数に関する用語の定義および複素数の相等の定義を理解している。 ○複素数の加法、減法、乗法の計算ができる。 ◎共役複素数の定義を理解し、それを利用して複素数の除法の計算ができる。 ◎負の数の平方根について理解し、それらを含む式の計算ができる。 ◎複素数の範囲で2次方程式を解くことができる。 ◎判別式を利用して、2次方程式の解が判別できる。 ◎解と係数の関係を利用して、解の和や積、対称式の値を求めることができる。 ◎2次方程式の解の条件から、解と係数の関係を利用して係数を求めることができる。 ◎2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。 ◎2数を解にもつ2次方程式を作ることができる。 ○和と積がわかっている2数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○負の数の平方根の積について、正の数の平方根で成り立っていた計算法則が成り立たないことを考察できる。 ○2次方程式の解について、2次関数のグラフとの関係から多面的に考察できる。 ◎解と係数の関係を活用して、2次方程式の解の条件を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数の範囲を実数から複素数へ拡張することについて、有理数から実数に拡張したことと関連させ、考察しようとする。 ○複素数が四則について閉じていることなど、複素数の性質を、実数の性質と関連させながら理解し、考察しようとする。 ○これまで「解なし」としていた2次方程式が、複素数の範囲では解をもつことに興味をもつ。 ○対称式が基本対称式で表されることに興味をもち、様々な対称式について基本対称式で表そうとする。 ○2次方程式の解の条件について、解と係数の関係以外にも、2次関数のグラフを用いて考察し、それらを比較して関係性を探ろうとする。	○	○	○	10

[illegible]

定期考査				○	○	1			
座標や式を用いて、点や直線についてその性質や関係を数学的に表現できるようにし、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第3章 第1節 点と直線	【知識・技能】 ◎数直線上の2点間の距離を求めることができる。 ◎数直線上の内分点、外分点の座標を求めることができる。 ○座標平面上の2点間の距離を求めることができる。 ◎座標平面上の線分の内分点、外分点の座標を求めることができる。 ◎三角形の重心の座標を求めることができる。 ◎x, yの1次方程式が表す直線をかくことができる。 ○x軸に垂直な直線は、 $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。 ◎与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができる。 ◎2直線の平行・垂直条件を理解し、それを利用できる。 ○図形 $F(x, y)=0$ が点(s, t)を通ることを $F(s, t)=0$ として処理できる。 ◎点と直線の公式を理解し、それを利用して距離を求めることができる。 ◎2直線の交点を通る直線の方程式を、 $kF(x, y)+G(x, y)=0$ の形を利用して求めることができる。 【思考・判断・表現】 ◎座標平面上の2点間の距離を活用して、点の座標を定めたり、図形の性質を証明したりすることができる。 ○内分点、外分点の座標を用いて、点対称であることを数式で表現できる。 ○通る2点がわかっている直線の方程式を、傾きと通る1点がわかっている直線の方程式を利用して考察できる。 ◎直線に関して対称な点の座標について、図形の条件を式で表現し、考察することができる。 ○ $kF(x, y)+G(x, y)=0$ の形の方程式が、2直線の交点を通る直線を表す理由を理解し、説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数直線上の外分点について、内分点と統一して捉えようとする。 ○座標平面を用いて図形の性質を一般的に証明する際、一般性を崩さないように点の座標を設定することや、座標軸のとり方によらず証明できることなどに興味をもち、様々な座標や座標軸の設定法を試そうとする。 ○三角形の3本の中線が1点で交わることが座標を用いて証明できることに興味をもつ。 ○x, yの方程式が座標平面上で図形を表すというこ				○	○	○	10

		との意味を理解しようとし、点の集合が図形を表すことを正しく認識する。 ○直線の方程式の公式を、直線が1つに定まる条件としてとらえようとする。 ○2直線の関係を、傾きに着目して考察しようとする。				
座標や式を用いて、円についてその性質を数学的に表現できるようにし、直線との関係、円どうしの関係など事象の考察に活用できるようにする。 図形を与えられた条件を満たす点の集合として認識し、軌跡の方程式が求められるようにする。また、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解する。さらに、軌跡や領域を事象の考察に活用できるようにする。	第3章 第2節 円 第3章 第3節 軌跡と領域	【知識・技能】 ○中心の座標と半径から円の方程式を求めることができる。また、円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。 ◎x, yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 ◎3点を通る円の方程式を求めることができる。 ○円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ○円の接線の公式を理解し、接線の方程式を求めることができる。 ◎円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。 ○2つの円の位置関係を、中心間の距離と半径の関係から調べることができる。 ◎2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係から、円の方程式を求めることができる。 ○2円の交点を通る図形の方程式を、$kF(x, y) + G(x, y) = 0$の形を利用して求めることができる。 ◎軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 ◎直線を境界線とする領域を図示することができる。 ◎円を境界線とする領域を図示することができる。 ◎連立不等式の表す領域を図示することができる。 【思考・判断・表現】 ◎2点を直径の両端とする円について、中心と半径に着目して、方程式を求めることができる。 ○円の方程式がx, yの2次方程式で表されることを理解し、x, yの2次方程式が、常に円を表すとは限らないことを考察・説明できる。 ○円の方程式を決定する際、問題に応じて適切な形の形を判断して使うことができる。 ◎円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数から考察することができる。 ◎円と直線の共有点の個数を、中心と直線の距離から考察することができる。 ◎2つの円の共有点について、2つの円の方程式を適切に変形して考察することができる。 ○直線や円などを、条件を満たす点全体の集合として考えることができる。 ○軌跡を求める手順について理解し、特に逆を確認する理由を集合と関連付けて考察できる。 ○不等式が表す領域を、不等式を満たす点全体の集合として考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○3点を通る円が1つに定まるということに興味をもち、三角形の外接円や、2点を通る円の集まりなどを考察することで理解しようとする。 ○円と直線の共有点の個数と、中心と直線の距離の関係について、図を複数かくなどして自ら見出そうとする。 ○円の接線を求める様々な方法を理解し、それぞれの関係や、どの方法を用いるかななどを積極的に考察しようとする。 ◎2つの円の方程式から導かれる1次方程式について、それが表す直線がどのようなものか考察しようとする。 ○軌跡と領域について、いずれも条件を満たす点全	○	○	○	10

			体の集合として捉え、これらを統一的に考察しようとする。				
定期考査				○	○		1
角の概念を一般角まで拡張して，三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について理解し，それらを多面的に考察できるようにする。	第4章 第1節 三角関数	【知識・技能】 ◎一般角について理解し，一般角を表す動径を図示したり，動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表したりできる。 ◎弧度法の定義を理解し，度数法と弧度法の換算ができる。また，動径が表す角について弧度法で考えることができる。 ◎扇形の弧の長さや面積を，公式を用いて求めることができる。 ◎弧度法で表された角の三角関数の値を，三角関数の定義によって求めることができる。 ◎三角関数の相互関係を理解し，それらを利用して様々な値を求めたり，式変形をしたりすることができる。 ◎ $\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し，それらを用いて三角関数の値を求めることができる。 ◎周期性や漸近線など，三角関数のグラフの特徴を理解している。 ◎ $y = \sin \theta$ のグラフをもとにした，いろいろな三角関数のグラフのかき方および周期の求め方を理解している。 ◎三角関数を含む方程式を解くことができる。 ◎三角関数を含む不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ◎弧度法を，弧の長さで角を測る方法として理解し，考察することができる。 ◎三角関数の値の符号について考察できる。また，値の増減についても考察し，それを適切に表現できる。 ◎3つある三角関数の相互関係のどれを用いるかや，式変形の方法を，その理由とともに適切に判断して問題を解決することができる。 ◎三角関数の性質を，単位円を用いて考察することができる。 ◎複数ある三角関数の性質について，適切なものを判断して利用し，三角関数の値を求めることができる。 ◎単位円上の点の動きから，三角関数のグラフを考えることができる。 ◎ $y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることについて，既習の三角関数の性質を用いて考察し，説明することができる。 ◎ $y = \sin(k\theta - \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して，グラフや周期を考察することができる。 ◎ $\sin(\theta + \alpha) = k$ の形の方程式について， $\theta + \alpha = t$ とおいたときの t の範囲にも注意して解くことができる。 ◎三角関数を含む関数について， $\sin \theta = t$ とおいた	○	○	○	15	

		ときのtの範囲にも注意して最大値・最小値を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○一般角を，動径とともに考察しようとする。 ○三角比の定義を一般化して，三角関数の定義を考察しようとする。 ○三角比の相互関係について，既習である円の方程式と関連付けて，多面的に考察しようとする。 ○三角関数のグラフについて，コンピュータを用いるなどして積極的に考察しようとする。 ○周期関数や奇関数，偶関数に興味をもち，その性質を調べようとする。 ○三角関数を含む不等式について，単位円だけでなく三角関数のグラフも利用するなどして，多面的に考察しようとする。 ○三角関数を含む関数で$\sin \theta = t$とおいたとき，θの動きとtの動きを関連付けて，関数の値の変化を考察し，理解しようとする。				
加法定理および加法定理から導かれる様々な定理を理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	第4章 第2節 加法定理	【知識・技能】 ◎加法定理を利用して，正弦，余弦の値を求めることができる。 ◎加法定理を利用して，正接の値を求めることができる。 ◎正接の加法定理を利用して，2直線のなす鋭角を求めることができる。 ◎2倍角の公式を利用して，三角関数の値を求めることができる。 ◎半角の公式を利用して，三角関数の値を求めることができる。 ◎2倍角の公式を利用して，やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 ○三角関数の合成をすることができる。 【思考・表現・判断】 ○$\cos(\alpha + \beta)$の加法定理から$\cos(\alpha - \beta)$の加法定理を導いた方法を参考に，$\sin(\alpha + \beta)$の加法定理から$\sin(\alpha - \beta)$の加法定理を導くことができる。 ○座標平面上の原点を中心として回転した点の座標について，加法定理を用いて考察できる。 ○2倍角の公式を利用して，やや複雑な三角関数を含む方程式・不等式の角を統一して考察することができる。 ◎三角関数の合成を用いて式を変形することで，既習の形に帰着し，関数の最大値・最小値を求めたり，方程式を解いたりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○加法定理を利用して，様々な公式を導出・証明しようとする。 ○同じ周期をもつ2つの関数$y = \sin x$と$y = \cos x$の和について，そのグラフが正弦曲線になることに関心をもち，式変形やグラフなど，様々な方法で考察しようとする。	○	○	○	15

定期考査			○	○		1
指数を実数まで拡張する意義を理解し、指数関数を事象の考察に活用できるようにする。	第5章 第1節 指数関数	【知識・技能】 ◎指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 ◎累乗根の定義や性質を理解し、累乗根の値を求めたり計算したりすることができる。 ◎指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を用いた計算をすることができる。 ◎指数関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかくことができる。 ○指数関数を含む方程式・不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ○正の数の累乗根がただ1つ存在することを、グラフによって考察することができる。 ○累乗根の性質の証明の1つを参考に、別の性質を証明することができる。 ○指数が無理数の場合の累乗の意味を理解することができる。 ○底の違いによって指数関数のグラフがどのように変わるかを考察し、適切に説明することができる。 ◎指数関数の増減によって、数の大小関係を考察することができる。 ◎$ax > 0$に注意して、置き換えによって既知の問題に帰着することで、指数方程式・指数不等式を解くことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○0乗、負の整数乗、分数乗は、指数法則が成り立つように定義されていることを理解し、その定義について考察しようとする。 ○指数法則を用いた計算について、いくつかの方法を試し、よりよい計算方法を検討しようとする。 ○負の数のn乗根に興味をもち、その値が存在するかどうかも含めて具体的に考察しようとする。 ○指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。	○	○	○	15

[illegible]

定期考査				○	○	1
微分係数や導関数の意味について理解し、多項式で表された関数の導関数が求められるようにする。また、関数のグラフの接線が求められるようにする。	第6章 第1節 微分法と導関数	【知識・技能】 ◎平均変化率の定義を理解し、それを求めることができる。 ◎関数の極限値の意味を直感的に理解し、それを求めることができる。 ○定義に従って関数の微分係数を求めることができる。 ◎微分係数の図形的な意味を理解し、接線の傾きを求めることができる。 ○導関数の意味を理解している。 ○定義に従って関数の導関数を求めることができる。 ◎公式を用いて関数の導関数を求めることができる。 ◎導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解し、それを求めることができる。 ○接点のx座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○導関数を表す種々の記号を理解し、それらを適切に使って表現することができる。 ○x以外の文字についての関数においても、導関数を求めることができる。 ○定数と変数を区別して関数を微分することができる。また、それを利用して、微分係数の値などから関数を決定することができる。 ◎曲線外の点Cから曲線に接線を引くとき、接点Aにおける接線が点Cを通ると読み替えて、接線の方程式を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○図をかいたりコンピュータを利用したりするなどして、微分係数の図形的な意味を積極的に考察しようとする。 ○関数 x_n の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。 ○接線の方程式について、微分係数だけでなく、2次方程式が重解をもつという条件も合わせ、多面的に考察しようとする。	○	○	○	15

導関数を用いて、関数の値の増減が調べられるようにする。また、それを用いて関数のグラフをかいたり、さらにグラフを様々な事象の考察に活用したりできるようにする。不定積分や定積分について理解し、それらの有用性を認識するとともに、定積分を用いてグラフで囲まれた図形の面積が求められるようにする。

第6章 第2節
関数の値の変化
第6章 第3節
積分法

【知識・技能】

◎導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。
◎導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。
◎関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。
◎導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。
○原始関数の定義および関数の原始関数が無限にあることを理解している。
○不定積分の表し方を理解し、積分定数を漏らさず正しく表すことができる。
○不定積分の性質を用いて、関数の不定積分を求めることができる。
◎定積分の定義を理解し、定積分を計算することができる。
○定積分の様々な性質を理解し、それを利用して定積分を計算することができる。
○上端が x である定積分を、 x で微分することができる。
◎グラフと x 軸の間の面積を、定積分で表して求めることができる。
◎2曲線の間の面積を、定積分で表して求めることができる。
◎絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。
○3次曲線とその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。
【思考・判断・表現】
○関数の増減を接線の傾きから考察することができる。
○ $f'(a)=0$ は、 $f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解し、係数決定の際に逆を確認する意味について適切に説明できる。
○導関数を活用して応用問題を考察できる。
◎方程式の実数解の個数を、関数のグラフと x 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。
◎不等式 $f(x) \geq 0$ を関数 $y=f(x)$ の最小値が0以上と読み替えて、不等式を証明することができる。
○積分変数が何であるかに注意して、不定積分を正しく表現し、計算することができる。
◎積分法が微分法の逆演算であることを利用して、与えられた条件を満たす関数を不定積分を用いて求めることができる。
◎定積分は定数であることを理解し、その理由を説明できる。また、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。
◎上端が x である定積分を、 x の関数と捉えて問題を解決することができる。
○定積分を図形の面積とみることで、定積分の性質を図形的に考察し、説明することができる。
○絶対値のついた関数の定積分を、図形の面積とみることができる。
○放物線と直線の交点の座標が複雑な値であるとき、放物線と直線で囲まれた部分の面積を、定積分の公式を利用するなどして、工夫して求める方法を

○

○

○

20

			考察することができる。 ○微分や定積分の計算で、$(x+a)^n$の導関数や不定積分の公式を利用するなどして、計算を工夫して行う方法を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○4次関数についても、3次関数と同様な方法で増減や極値について調べたり、グラフをかいたりしようとする。 ○最大値、最小値の条件から定義域を自由に定め、それらから一般的な性質を導き出そうとする。 ○数学の事象や日常の事象について、関数を用いて解決しようとする。 ○積分法が微分法の逆演算であることから、不定積分を求めたり、不定積分の公式が成り立つことを確かめたりしようとする。 ○定積分の性質を、定積分の定義から証明しようとする。 ○面積$S(x)$が関数$f(x)$の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。				
	定期考査				○	○	
							1
							合計
							140

年間授業計画 様式例

高等学校

令和7年度

教科

数学

科目

数学B

教科 数学

科目 数学B

対象学年組：第 2 学年 3 組～ 5 組

使用教科書：（ NEXT 数学B 【数研出版】 ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力。日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期							
	定期考査						
	定期考査						
	定期考査						
	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として、等差数列と等比数列を、両者を比較しながら理解し、それらの和を、公式が導出される過程を理解した上で求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	第1章 第1節 等差数列と等比数列	【知識・技能】 ○数列の定義、表記について理解し、用語や記号を正確に用いることができる。 ○数列の一般項の意味を理解し、一般項から各項を求めることができる。また、ある規則で並んだ数列の一般項をnの式で表すことができる。 ◎等差数列の定義と公差について理解し、等差数列の項を求めることができる。 ○等差数列の一般項の求め方を理解し、具体的に求めることができる。 ◎条件から等差数列の一般項を決定できる。 ○数列が等差数列であることを証明できる。 ◎等差数列の隣り合う2項の関係から具体的な項を求めることができる。 ○等差数列の和の公式を導出する過程を理解している。 ◎公式を用いて等差数列の和を求めることができる。 ◎等比数列の定義と公比について理解し、等比数列の項を求めることができる。				

		の項を求めることができる。 ○等比数列の一般項の求め方を理解し、具体的に求めることができる。 ◎条件から等比数列の一般項を決定できる。 ◎等比数列の隣り合う2項の関係から具体的な項を求めることができる。 ○等比数列の和の公式を導出する過程を理解している。 ◎公式を用いて等比数列の和を求めることができる。 【思考力・判断力・表現力】 ○数列の一般項を表す式を、定義域が自然数であるnの関数と捉え、新しい概念である数列を、既習の関数と関連付けて考察できる。 ○数列が等差数列であることの証明について、それが正しい理由を式の特徴と関連付けて説明できる。 ◎項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。 ○数列の和の増減を、関数の増減と捉えて考察し、項の正負を用いた考察との違いや関連を説明することができる。 ○等比数列の和の条件から初項や公比を求めることができる。またその際、式の特徴を活かして適切に変形したり、式の意味を読み取ったり表現したりできる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 ○数列の特徴を、隣り合う2項の関係に着目して考察しようとする。 ○数列の一般項の式の形や係数の意味に興味をもち、考察する。 ○等差数列の和の公式を用いて、奇数の和について成り立つ等式を証明しようとする。 ○数列の特徴を、隣り合う2項の関係に着目して考察しようとする。また、等比数列を、等差数列と比較しながら考察しようとする。 ○複利計算について興味をもち、積み立て額や利率を変えたときに、元利合計がどのように変わるのか、その特徴を主体的に調べようとする。	○	○	○	15
定期考查			○	○		1
和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できるようにする。	第1章 第2節 いろいろな数列 第1章 第3節 漸化式と数学的帰納法	【知識・技能】				
		◎和の記号 Σ の意味を理解し、 Σ を用いて表された和を、項を書き並べて表すことができる。また、項を書き並べて表された和を、 Σ を用いて表すことができる。				
		◎自然数の累乗の和を求めることができる。				
		○ Σ について成り立つ性質を理解し、それを用いて和を求めることができる。				
		○階差数列からもとの数列の具体的な項を求めることができる。				
		◎階差数列から数列の一般項が求められる仕組みを理解し、具体的に一般項を求めることができる。				
		◎数列の和と一般項の関係を理解し、和から一般項を求めることができる。				
		○初項と漸化式から数列のすべての項が定まることを理解している。				
		◎漸化式の意味を理解し、数列の具体的な項を求めることができる。				
		○基本的な漸化式からどのような数列であるか読み取り、一般項を求めることができる。				
		◎漸化式 $an+1=pan+q$ から一般項を求めることができる。				
		◎すべての自然数について命題が成り立つことが、数学的帰納法を用いて証明できる仕組みを理解して				

3 学 期			いる。 ◎数学的帰納法を用いて等式の証明ができる。 ◎数学的帰納法を用いて不等式の証明ができる。 ◎数学的帰納法を用いて整数の性質の証明ができる。 【思考力・判断力・表現力】 ○1つの和を、Σを用いて様々な方法で表現することができる。 ○和Σr_kについて、既に学んだ等比数列の和と捉えて求めることができる。 ◎数列の第k項をkの式で表すことで、Σを用いて数列の和を求めることができる。 ○数列の和と一般項の関係を、数列と階差数列の関係と対応させて捉えることができる。 ○階差数列から一般項を求めるときや、数列の和から一般項を求めるときに、$n=1$を別に考える必要がある理由について、数値を変えたりして考察し、説明できる。 ◎$f(k+1)-f(k)$を用いて数列の和が求められる仕組みを理解し、具体的な和を求める問題に活用することができる。 ◎等差数列と等比数列の積で表される数列の和について、等比数列の和の公式を導いた方法を応用して考察することができる。 ◎群数列について理解し、1つの群に入る数列の和を求めることができる。 ○複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ○具体的な事象について、a_nとa_{n+1}の間に成り立つ漸化式を求めて考察することができる。 ○$n \geq k$で成り立つ命題の証明について、数学的帰納法の仕組みからその方法を考察することができる。 ○数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらを比較するなど、多面的に考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○自然数の和の公式を用いて自然数の2乗の和の公式が導けることに興味をもち、自然数の3乗の和の公式を導こうとする。また、さらに高い次数の累乗の和の公式についても考察しようとする。 ○数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 ○群数列に興味をもち、一般項や和について考察しようとする。 ○一般項による方法以外にも数列の項を定める方法があることに興味をもち、それらの共通点や相違点などを考察しようとする。 ○$a_{n+1}=pan+q$を満たす数列について、おき換え以外に階差数列を用いる方法でも一般項を求めようとし、それらの関係や一般的な性質を考察しようとする。 ○具体的な事象の考察に、漸化式を積極的に活用しようとする。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
							合計
							35

年間授業計画 様式例					
高等学校 令和7年度		教科	数学	科目	数学C
教科：数学		科目：数学C		単位数：	1 単位
対象学年組：第 2 学年 3 組～ 5 組					
使用教科書：（ NEXT 数学C 【数研出版】		）			
教科 数学		の目標：			
【知識及び技能】		数学の基本的概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学的に解釈し表現・処理する技能を身につける。			
【思考力、判断力、表現力等】		数学を活用して、事象および事象間の関係を論理的に考察し、簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。			
【学びに向かう力、人間性等】		積極的に数学を活用する態度、問題解決の過程を振り返り評価・改善する態度や創造性の基礎を養う。			
科目 数学C		の目標：			
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】	
ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数式化したたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。		大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができるようにする。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できるようにする。	第1章 第1節 ベクトルとその演算	【知識・技能】 ○有向線分を用いたベクトルの定義や表し方を理解している。 ◎ベクトルの相等や逆ベクトルの定義を理解し、図の中から探すことができる。 ○ベクトルの和の定義を理解し、それを図示できる。 ◎ベクトルの和の計算ができる。 ○ベクトルの差の定義を理解し、それを図示できる。 ◎ベクトルの差の計算ができる。 ○ベクトルの実数倍の定義を理解し、式で表現できる。 ◎ベクトルの実数倍の性質をもち、ベクトルの演				

1 学 期			○ベクトルの実数倍の性質をもとに、ベクトルの演算ができる。 ◎ベクトルの平行条件を理解し、平行なベクトルを求めることができる。 ◎平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを2つのベクトルで表すことができる。 ◎ベクトルの成分表示の仕組みを理解し、具体的なベクトルを成分表示できる。また、そのベクトルの大きさを求めることができる。 ◎成分表示されたベクトルの計算ができる。 ○点の座標とベクトルの成分の関係を理解し、2点で定められるベクトルを成分表示できる。 【思考・判断・表現】 ○ベクトルの加法の性質が成り立つことを、加法の定義を用いて説明することができる。 ○ベクトルの減法の性質が成り立つことを、減法の定義を用いて説明することができる。 ○ベクトルの和、差、実数倍の定義をもとに、それらを組み合わせたベクトルの図示ができる。 ○ベクトルの平行条件を成分表示にも適用し、成分を定めることができる。 ○ベクトルの成分と点の座標を明確に区別し、正しく言葉で表現できる。 ◎点の座標とベクトルの成分の関係を、座標平面上の図形の問題に活用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○日常の量で、向きと大きさをもつものがあることに興味をもち、それをベクトルで表現しようとする。 ○1つのベクトルに平行な単位ベクトルを求める公式について、それが正しいことを、定義や既習の計算法則を用いて確認しようとする。 ○成分表示されたベクトルの演算法則を、ベクトルの演算法則から導き出そうとする。 ○座標平面上の図形の問題について、ベクトルを用いる解法と用いない解法を比較し、条件の過不足を検討することで、それぞれの解法の特徴を検討しようとする。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。	第1章 第2節 ベクトルと平面図形	【知識・技能】 ○内積が実数であることを理解している。 ◎ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ◎成分表示されたベクトルの内積を求めることができる。 ◎成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。 ○ベクトルの垂直条件を理解し、成分を定めることができる。 ○三角形の面積がベクトルを用いて求められる。 ○点の位置を、基準となる点と1つのベクトルを用いて表すことができることを理解している。 ◎ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。 ◎内分点、外分点の位置ベクトルを求めることができる。 ○位置ベクトルがある条件を満たすような点全体の集合がある図形となることを理解している。 ◎直線のベクトル方程式について、媒介変数を用いて表すことができる。 ◎通る1点と法線ベクトルから直線が定まることを理解し、具体的に直線の方程式を求めることができる。 ◎円のベクトル方程式から、その中心の位置ベクトルや半径を求めることができる。 【思考・判断・表現】				

		◎ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ◎内積の性質を用いて、等式を証明したり、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ◎位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ○図形の問題において、求めた位置ベクトルの意味を解釈し、説明することができる。 ◎位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。 ◎位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ◎ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ○直線の方向ベクトルについて、その向きや大きさと媒介変数の値の関係を考察できる。 ◎点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○内積の性質を、既習の知識を用いて証明しようとする。 ○ベクトルの内積の計算をする際、1つ1つの計算で用いている性質を意識し、正しく適用できているか確かめようとする姿勢がある。 ○線分ABを$m:n$に内分する点の位置ベクトルを求める過程を参考に、$m:n$に外分する点の位置ベクトルを、mとnの大小関係に関わらず自ら求めようとする。 ○三角形の3本の中線が1点で交わることが、重心の位置ベクトルを求める過程で証明できることに興味をもち、それを確かめようとする。 ○様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ○図形のベクトル方程式について、点の座標(x, y)についての方程式と関連させて考察し、それらの共通点などを見出そうとする。	○	○	○	12	
定期考査			○	○		1	
2 学	平面上のベクトルの拡張として空間のベクトルを捉え、空間図形の性質の考察などに活用できるようにする。また、それに関連して、座標空間における点や図形について考察できるようにする。	第2章 空間ベクトル	【知識・技能】 ◎空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ◎空間の点と原点との距離が求められるようになる。 ○平面上のベクトルについての種々の定義や性質などは、空間においても同様に成り立つことを理解している。 ○空間図形の中で、等しいベクトルや逆ベクトルを探することができる。 ◎空間図形において、ベクトルの和や差を考察することができる。 ◎空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。 ◎ベクトルの成分表示について、平面上のベクトルの拡張になっていることを理解し、ベクトルが等しくなるように成分を定めたり、成分表示されたベクトルの大きさを求めたりすることができる。 ◎成分表示された空間のベクトルの演算ができる。 ◎座標空間の2点で定められるベクトルを成分表示できる。 ○空間のベクトルの内積の定義が平面上のベクトルの内積の定義と同じであることを理解し、空間のベクトルの内積を求めることができる。 ○成分表示された2つのベクトルのなす角を、内積を用いて求めることができる。 ○平面上のベクトルの内積の性質は、空間においても同様に成り立つことを理解している。 ○位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ◎座標空間における2点間の距離や線分の内分点、外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 ◎座標軸に垂直な平面の方程式が求められるように	○	○	○	10

2 期			なる。 ○中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。 【思考・表現・判断】 ○空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表される理由について、平面上のベクトルが2つのベクトルの線形和で1通りに表されることから説明できる。 ◎座標空間の3点で定まる角の大きさを、ベクトルを活用して求めることができる。 ◎ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ◎位置ベクトルを活用して、図形の性質が考察できる。 ◎位置ベクトルを活用して、空間の3点が一直線上にあることを証明できる。 ○空間の4点が同じ平面上にある条件を理解し、点の座標を定めることができる。 ◎位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ◎ベクトルの内積を活用して、図形の性質を証明できる。 ○$x=a$などの方程式が座標軸に垂直な平面を表す理由を正しく理解し、座標軸に平行な直線の方程式について考察できる。 ◎条件から中心と半径を考え、球面の方程式を求めることができる。 ◎球面と平面が交わってできる図形を、連立方程式の解の集合として考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ○座標空間における点の表し方を、座標平面における点の表し方の拡張として捉えようとする。 ○様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ○座標平面上の図形の方程式について改めて正しく理解し、座標空間についても同じ考え方で図形の方程式を求めることができる。	○	○		1
	定期考査						
3 学 期	定期考査						
3 学 期	定期考査						合計
							35

年間授業計画 様式例											
高等学校		令和7年度（2学年用）		教科		理科		科目		物理基礎	
教 科： 理科		科 目： 物理基礎		単位数： 2		単 位					
対象学年組：第 2 学年		3 組～ 5 組									
使用教科書：（ 物理基礎		数研出版		）							
教科 理科		の目標：									
【知識及び技能】		自然の事物や現象に対する興味を持ち、原理・法則を基に理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験、観察に関する基本的な知識・技能を身に付ける。									
【思考力、判断力、表現力等】		自然の事物・現象の中に法則性を見出し、法則性をもとに自然をとらえ、得られた結果を他人に説明できるよう表現力を身に付けさせる。									
【学びに向かう力、人間性等】		自然の事物・現象に興味を持ち、奇襲の知識などで理解しようとする態度を養う。その際に、他の人達と協力し合って探求する姿勢を育てる。									
科目 物理基礎		の目標：									
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】				【学びに向かう力、人間性等】					
自然の事物・現象に関わり、物理の見方・考え方を働かせ、法則によって理解したり、観察・実験を通して理解しようとする態度や技能を身に付けるようにする。		教科にしばられず、さまざまな事物・現象に興味を持ち、物理との関連を見い出して物理的に理解を深めそれを表現できる力を養う。				物理の基本的な知識や考え方を、きちんと理解しようとする態度を養う。その際、身近な級友と協力し合う姿勢を育てる。さらに、日常的に社会と教科の関連に興味を持たせる。					

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 1. 速度 【知識及び技能】 物体の運動を定量的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物体の運動を式やグラフで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習したことを、日常生活の運動にあてはめて考える。	・指導事項 物体の運動を理解するための物理量（速度等）の定義をきちんと理解させる。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 速さと速度の区別ができる。 相対速度と速度合成が区別できる 【思考・判断・表現】 グラフから運動を想像できる 速度合成がベクトル合成であることを理解できる 【主体的に学習に取り組む態度】 グラフから平均の速度と瞬間の速度が理解できる 周囲の人と協力して疑問を解決する				

			○	○	○	4
第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 2. 加速度 3. 落体の運動 【知識及び技能】 物体の運動を定量的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 物体の運動を式やグラフで表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 学習したことを、日常生活の運動にあてはめて考える。	・指導事項 直線運動に関して、速度の変化する運動をグラフや式を用いて理解する。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 加速度により、速度が変化する運動を理解する。式やグラフから、定量的に運動を理解する。 【思考・判断・表現】 式やグラフから、具体的な運動を想像できる。速度や加速度が負になる運動について、具体的な運動と関連できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 具体的な運動を、グラフや式で表現しようとする。周囲の人と協力して疑問を解決する。				
定期考査			○	○	○	6
			○	○	○	1
第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 1. 力とそのはたらき 2. 力のつり合い 【知識及び技能】 力の性質、力の表現方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 力のはたらき、力のつり合いの関係を理解し判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 力のつり合いを、日常生活に見られる構造物にあてはめて考える。	・指導事項 力の性質、力の表現方法を理解させる。物体に、複数の力が作用しつり合う場合の条件を知り、つり合うかどうかの判断ができるようにする。さまざまな種類の力について理解する。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 力の定義が分かる。力の表現方法が分かる。力がつり合う条件が分かり、力のつり合いについて判断できる。 【思考・判断・表現】 力のつり合いを保つため、加える豊一からについて求められる。力のつり合いを保つための構造を推測できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 構造物に作用する力のつりあいについて興味を持ち、自ら調べる。演習問題に積極的に取り組む。周囲の人と協力して疑問を解決する。	○	○	○	6

	第1編 運動とエネルギー 第2章 運動の法則 3. 運動の法則 4. 摩擦を受ける運動 5. 液体や気体から受ける力 【知識及び技能】 力の性質、力の表現方法を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 力のはたらき、力のつり合いの関係を理解し判断する。 【学びに向かう力、人間性等】 力のつり合いを、日常生活に見られる構造物にあてはめて考える。	・指導事項 力が物体の運動に及ぼす効果を理解させる。力の加わり方によって、物体に現れる運動の違いがあることを理解する。特に、面から受ける摩擦力や、液体、気体から受ける力の特徴から、物体の運動に与える影響を知る。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 力が物体の運動に与える影響が分かり、力の特徴から、物体に生じる運動が予想できる。 【思考・判断・表現】 物体に作用する具体的な力から、物体に生じる運動を予想できる。特に、摩擦力や空気抵抗を受ける場合の運動について、その運動が予想でき、他人に説明ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常的に目にする運動を、運動の法則にあてはめて考える。乗り物について、運動の法則をあてはめて理解する。 周囲の人と協力して疑問を解決する。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	第1編 運動とエネルギー 第3章 仕事と力学的エネルギー 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 【知識及び技能】 エネルギーに関して、力学的エネルギーと熱エネルギーについて理解し、簡単な計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 力学的エネルギー保存の法則や熱量保存が成立する条件を理解し、物体の運動について力学的エネルギーから理解できる。 【学びに向かう力、人間性等】 日常生活の運動に関して、力学的エネルギーや熱の性質で説明しようと試みる。	・指導事項 力学的エネルギーについて、基本事項を理解する。保存力を理解し、力学的エネルギー保存の法則で現象を説明できるようにする。力学的エネルギーが保存しない場合には、熱現象をとまなうことが多いことを理解した上で、熱の性質を調べる。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 運動の法則から力学的エネルギーを導ける。力学的エネルギー保存の法則をあてはめて、物体の運動について計算できる。 熱現象を定量的に理解できる。 【思考・判断・表現】 力学的エネルギーから物体の運動を説明できる。日常生活の運動の中から、力学的エネルギー保存の法則をあてはめて説明できる現象を探し出せる。可逆変化、不可逆変化を熱現象から説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 日常生活で見聞きする物体の運動を、力学的エネルギーで説明しようと試みる。日常の現象を熱現象の特徴から理解しようと試みる。 周囲の人と協力して疑問を解決する	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音 【知識及び技能】 波の現象について理解し、簡単な計算ができる。音に関して波の性質から説明できる。 【思考力、判断力、表現力等】 波動現象と物体の運動と共通な点、異なる点を理解する。音の持つ特徴と波動現象を関連して理解する。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 直線的に伝わる波を中心にして、波に特有な現象・性質（波の独立性・重ね合わせの原理）を中心に理解させる。音に現れる現象を、波の性質から説明できるようにする。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示	【知識・技能】 波動現象と物体の運動に関して、共通点と異なる点を理解する。音の現象に関して、波の性質から理解する。 【思考・判断・表現】 物体の運動と異なる波動現象の特徴を、合理的に説明できる。音が持つ、波動的性質を用いて音を操作する工夫を思いつく。 【主体的に学習に取り組む態度】 波動に特徴的な現象を日常生活の中から見つけ出す。音に関わる現象を波の性質から説明しようと試みる。	○	○	○	12

	日常生活の波動現象や音の性質に関して、波の性質で説明しようと試みる					12	
	定期考査					1	
3 学期	第4編 電気 第1章 物質と電気 第2章 磁場と交流 【知識及び技能】 電気磁気に関する簡単な理解と計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 電流に関する現象を電子の動きから理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 電気に関する知識を、日常生活にあてはめて考えられる	・指導事項 電磁気に関する基本的な知識を、広く学ばせる。電磁気に関する知識を関連付けさせて日常利用する電力について理解を深める。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示 授業内容に関する調べ学習	【知識・技能】 基本的な電気の法則を用いて、電気回路について理解する。電流に関して自由電子の流れから理解する。 【思考・判断・表現】 電力を送るときに高圧送電する理由を理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 電力に関わる社会的問題などについても、興味を持って調べる。				17
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギー利用 【知識及び技能】 エネルギーの性質と社会的なエネルギー問題を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 エネルギー問題を物理の法則～理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 積極的に、学習内容を社会的な問題解決に利用しようとする。 定期考査	・指導事項 エネルギーとエネルギー資源を区別して理解する。エネルギー資源からエネルギーを取り出す工夫について理解させる。 ・教材 教科書、問題集、プリント ・一人1台端末の活用 等 授業スライドの表示 授業内容に関する調べ学習	【知識・技能】 エネルギーとエネルギー資源を区別して理解し、現代におけるエネルギー問題を説明できる。 【思考・判断・表現】 自分なりのエネルギー問題の解決策を考え、他人に説明できるようにする。 【主体的に学習に取り組む態度】 エネルギーに関わるさまざまな問題を、主体的に調べその解決策を科学的に考察する。				2
						1	
						合計 70	

教科：理科 科目：化学 単位数：3 単位
対象学年組：第 2 学年 3 組～ 5 組
使用教科書：（ 第一学習社 高等学校 化学 ）
教科 理科 の目標：

科目	化学	の目標：
	【知識及び技能】	化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
	【思考力、判断力、表現力等】	化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
	【学びに向かう力、人間性等】	日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

1 学 期	第2章 気体の性質						
	【知識及び技能】 ・物質の状態とその変化を、構成粒子の存在状態とエネルギーの関係について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・物質の沸点、融点を分子間力（水素結合やファンデルワールス力）や化学結合と関連付けて考えることができる。	物質の三態 気体・液体間の状態変化	【知識及び技能】 ・物質の状態とその変化を、分子間力と粒子の熱運動の関係から理解することができる 【思考力・判断力・表現力等】 ・水素結合とはどのような結合か説明することができる。 ・液体の沸点や固体の融点に関して、分子間力や化学結合の大小関係と関連付けて説明することができる。	○	○		6
	【知識及び技能】 ・気体の性質（気体の体積と圧力や温度との関係や、ボイル・シャルルの法則）について理解することができる。 ・気体の状態方程式が理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・気体の性質について説明することができる。 ・気体定数と気体の状態方程式、分子量の関係や混合気体における分圧の法則について考え、計算することができる。 ・実在気体と理想気体の違いについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体の性質に関して実験の結果から考察しようとする。	気体 気体の状態方程式 【実験 気体の分子量測定】	【知識及び技能】 ・気体の各法則（気体の体積と圧力や温度との関係や、ボイル・シャルルの法則）について理解し、適切に扱うことができる。 ・気体の状態方程式の意味を理解し、適切に扱うことができる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・気体の性質から、蒸気圧曲線が表す内容を説明をすることができる。 ・気体定数と気体の状態方程式、分子量の関係や混合気体における分圧の法則について考え、適切に計算することができる。 ・実在気体と理想気体の違いについて説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・気体の分子量測定の実験に積極的に参加し、科学的に探究しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第3章 溶液の状態 第4章 固体の構造						
	【知識及び技能】 ・希薄溶液の性質を理解できる。 ・コロイド溶液の性質について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・希薄溶液の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など)を踏まえて、身近な現象について説明することができる。 ・コロイド溶液の性質について簡潔に説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コロイドの性質を考えようとする。	溶解 稀薄溶液の性質 コロイド 【実験 コロイド溶液】	【知識及び技能】 ・希薄溶液の性質（蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など）について理解している。 ・コロイド溶液の基本的な性質について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・希薄溶液の性質(蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧など)はなぜ起こるのか理解し、身近な現象について説明することができる。 ・コロイド溶液の性質について簡潔に説明することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コロイド溶液の実験を通して、コロイドの性質を考えようとする。	○	○	○	10
【知識及び技能】 ・結晶格子の概念について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 ・結晶の構造(体心立方格子、面心立方格子、六方最密構造)について、含まれる粒子の数や配位数を求めることができる。 定期考査	結晶 金属結晶の構造 イオン結晶の構造 分子結晶と共有結合の結晶 定期考査	【知識及び技能】 ・各結晶の単位格子について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・結晶の構造(体心立方格子、面心立方格子、六方最密構造)について、含まれる粒子の数や配位数を求めることができる。 定期考査	○	○		8 1	
2 学 期	第2編 化学反応とエネルギー 第1章 化学反応と熱・光 第2章 電池と電気分解						
	【知識及び技能】 ・エンタルピーの概念と様々な反応エンタルピーについて理解できる。 ・エントロピーの概念について理解できる。 ・ヘスの法則について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・化学反応における発熱や吸熱について、エンタルピー変化から考えることができる。 ・ヘスの法則を用いてエンタルピー変化の値を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・反応熱に関する実験を行い、ヘスの法則が実際に成立するか検証する。	反応とエンタルピー ヘスの法則 光とエネルギー 【実験 ヘスの法則の検証】	【知識及び技能】 ・エンタルピーの概念と様々な反応エンタルピーについて理解している。 ・エントロピーの概念について理解している。 ・ヘスの法則の内容を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・反応前後におけるエンタルピー変化から、化学反応における発熱や吸熱について考えることができる。 ・ヘスの法則をもとにエンタルピー変化について考え、求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・反応熱に関する実験に主体的に取り組み、ヘスの法則が実際に成立するか検証する。	○	○	○	10
	第3編 化学反応の速さと平衡 第1章 化学反応の速さ 第2章 化学平衡 第3章 水溶液中の化学平衡						

3 学 期	【知識及び技能】 ・反応速度の基本的な概念について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・反応速度に影響を与える要因について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・反応速度を求めたり、反応速度と濃度や温度の関係を調べようとする。	反応の速さ 反応速度を変える条件 反応のしくみ	【知識及び技能】 ・反応の速さの表し方がわかる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・反応速度に影響を与える要因(濃度、温度、触媒)について理由を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験を通して、反応時間から反応速度を求め、反応速度と濃度や温度の関係を調べようとする。	○	○	○	6
	定期考查						1
	【知識及び技能】 ・化学平衡とはどのような状態か、平衡移動とは何か理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・可逆反応，化学平衡について考えることができる。 ・化学平衡の移動について考えることができる。	可逆反応と化学平衡 平衡の移動	【知識及び技能】 ・化学平衡と平衡移動の原理について理解できる。 【思考力・判断力・表現力等】 ・ルシャトリエの原理をもとに、化学平衡がどのように移動するか考えることができる。	○	○		6
	【知識及び技能】 ・電離平衡について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・塩の加水分解について電離平衡をもとに考えることができる。 ・緩衝作用について理解し、溶液のpHを計算できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 平衡移動、緩衝溶液の性質の実験に主体的に取り組み、結果から性質を考察しようとしている。	電離平衡 塩の水への溶解 【実験 平衡移動】 【実験 緩衝溶液の性質】	【知識及び技能】 ・酸と塩基の電離平衡について理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・塩の加水分解について溶液のpHを計算によって求めることができる。 ・緩衝液に、少量の酸や塩基を加えたときの水素イオン濃度とpHの値を計算によって求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験の結果から、平行移動の原理や緩衝溶液の性質について考察しようとしている。	○	○	○	12
	定期考查						1
	第5編 有機化合物 第1章 有機化合物の特徴と構造 第2章 炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物						
3 学 期	【知識及び技能】 ・基本的な有機化合物について知り、特徴と分類方法を理解する。 ・各種、有機化合物の性質について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 ・有機化合物の特徴と分類を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験を通して、有機化合物の性質や反応、分類や分析の仕方を調べようとする態度を養う。	有機化合物の特徴 構造式の決定 飽和炭化水素 不飽和炭化水素 アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸 エステル・油脂・セッケン 【実験 炭化水素の反応性】 【実験 アルコールとアルデヒド】 【実験 カルボン酸とエステル】 【実験 高級脂肪酸と油脂】	【知識及び技能】 ・基本的な有機化合物の特徴と分類、名称などを理解している。 ・飽和炭化水素、不飽和炭化水素の性質を理解している。 ・アルコールとエーテルについて性質を理解している。 ・アルデヒドとケトンについて性質を理解している。 ・カルボン酸について性質を理解している。 ・エステル・油脂・セッケンについて性質を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・有機化合物の特徴と分類を官能基をもとに考えることができる。 ・アルコールの分類や性質とエーテルの性質を考えることができる。 ・アルデヒドの性質とケトンの性質について考えることができる。 ・カルボン酸とエステルの構造や性質について考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・一般的有機化合物の性質や構造を理解し、実験を通して、性質や反応、分類や分析の仕方を調べようとする。	○	○	○	15
	【知識及び技能】 ・基本的な芳香族化合物について理解する。 【思考力・判断力・表現力等】 ・基本的な芳香族化合物について構造を理解し、性質や反応を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・実験を通して、基本的な芳香族化合物の反応や性質について考察している。	芳香族炭化水素 フェノール類と芳香族カルボン酸 芳香族アミンとアゾ化合物 芳香族化合物の分離 【実験 芳香族化合物①】 【実験 芳香族化合物②】	【知識及び技能】 ・芳香族化合物の名称や構造式、性質について理解している。 ・芳香族炭化水素の性質について理解している。 ・フェノール類と芳香族カルボン酸について性質を理解している。 ・芳香族アミンとアゾ化合物について性質を理解している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・芳香族炭化水素の構造、性質や反応を考えることができる。 ・酸素を含む芳香族化合物(フェノール類、芳香族カルボン酸など)の構造、性質や反応について考えることができる。 ・窒素を含む芳香族化合物(芳香族アミンなど)を考えることができる。 ・有機化合物の性質を利用し、混合溶液の分離を考えることができる。	○	○	○	15

			【主的に学習に取り組む態度】 ・一般的な芳香族化合物の性質や構造を理解し、実験を通して考察しようとしている。				
	定期考査						1
							合計
							105

年間授業計画 様式例

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教 科： 理科 科 目： 生物基礎

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組 単位数： 2 単位

使用教科書：（ 数研出版『新編 生物基礎』 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の物事・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な知識・技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 自然の物事・現象の中に問題を見出し、見通しをもって実験・観察などを行い、得られた結果をもとに分析および考察し思考力・判断力・表現力を育む。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の物事・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験とうに関する基本的な技能を身に付けようとする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生物の多様性と共通性 【知識及び技能】 生物の多様性と共通性についてについての事例を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 生物の多様性と共通性の由来について説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 生物の多様性と共通性についての知識や理解をもとにして身の回りの生物を知ろうとする。	・指導事項 多様な生物にも共通性があることを理解する。多様な生物に共通性が見られる理由について理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・生物が「細胞からできている」、「遺伝情報としてDNAをもっている」、「生命活動にはエネルギーが必要」などの共通性をもつことを理解する。 ・生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解する。 【思考・判断・表現】 ・さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生物の多様性と共通性に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	5
	エネルギーと代謝 【知識及び技能】 生命活動にはエネルギーが必要であることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 生命活動でのエネルギーの利用について説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 生命活動でのエネルギーについての知識や理解を自分自身の生命活動と結びつけて、とらえようとする。	・指導事項 呼吸や光合成ではエネルギーが必要であることを理解する。生命活動にはATPのエネルギーが利用されていることを理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。 ・ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 【思考・判断・表現】 ・ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・エネルギーと代謝に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	4
	呼吸と光合成 【知識及び技能】 呼吸と光合成はエネルギーを扱う生命現象であることを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 呼吸と光合成でのエネルギーの変換について説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 呼吸や光合成でのエネルギー変換についての知識や理解がすべての生物にとって重要なものであることをとらえようとする。	・指導事項 呼吸や光合成ではATPが合成されていることを理解する。生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解する。 ・生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解する。 【思考・判断・表現】 ・中学校で得た知識などを活用して、植物が有機物を得る方法について説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・呼吸と光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	遺伝情報とDNA 【知識及び技能】 DNAの構造について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 DNAの構造についての知識をもとにして、物質が情報を担うことを説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 DNAについての知識や理解を、自分自身の遺伝情報と結びつけて把握しようとする。	・指導事項 DNAの構造を理解する。DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・DNAの構造および塩基の相補性を理解する。 ・DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。 【思考・判断・表現】 ・DNAの構造の模式図をもとに、DNAが4種類の塩基からなること、塩基の結合はAとT、GとCの間で起こるという規則性に気づき、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報とDNAに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	4
	遺伝情報の複製と分配 【知識及び技能】 DNAの複製と分配について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 DNAの複製についての知識をもとにして、複製と分配を説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 DNAの複製や分配についての知識や理解をもとにして、生命の共通性について理解しようとする。	・指導事項 DNAの複製されるしくみを理解する。体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・DNAの複製の複製という方法によって正確に複製されることを理解する。 ・体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解する。 【思考・判断・表現】 ・複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報の複製と分配に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	遺伝情報の発現 【知識及び技能】 DNAからタンパク質が合成される過程について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 DNAの塩基配列をもとにして、タンパク質が合成される過程を説明することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 遺伝子の発現についての知識や理解をもとにして、生命の多様性や共通性を把握しようとする。	・指導事項 DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される過程を理解する。からだを構成する細胞で遺伝子がどのように発現しているかを理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される。転写・翻訳の過程を理解する。 ・分化した細胞で、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 【思考・判断・表現】 ・アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	6
	体内での情報伝達と調節 【知識及び技能】 体内で行われている細胞間の情報伝達について理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 自律神経系や内分泌系についての知識をもとにして、生体内で起こる細胞間の情報の伝わりを説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 自律神経系や内分泌系についての知識や理解を日常生活や医療などに結びつけて、自分の行動について考えようとする。	・指導事項 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系が、からだの状態を調節するしくみを理解する。 ・教材 教科書、問題集、資料集 ～一人1台端末の活用 等 画像、動画視聴や調べ学習の際などで使用	【知識・技能】 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解する。 【思考・判断・表現】 ・運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。	○	○	○	6

・ 学 期	第2編 移り変わる地球 【知識及び技能】 移り変わる地球に関する基本的な知識、技能を身につけさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境 ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 移り変わる地球に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○		1
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第3編 大気と海洋 【知識及び技能】 移り変わる地球に関する基本的な知識、技能を身につけさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海洋の運動 ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 大気と海洋に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	第4編 地球の環境 【知識及び技能】 地球の環境に関する基本的な知識、技能を身につけさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 地球の環境と日本の自然環境 ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 地球の環境に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
3 学 期	第5編 太陽系と宇宙 【知識及び技能】 太陽系と宇宙に関する基本的な知識、技能を身につけさせる 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現する力をつけさせる 【学びに向かう力、人間性等】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応する力を養う	・第1章 太陽系と太陽 第2章 宇宙の誕生 ・教材等 教科書、プリント、スライド教材、ワークブック、一人1台端末の活用	【知識・技能】 太陽系と宇宙に関する基本的な知識、技能を修得する 【思考・判断・表現】 科学的な思考を理解し、論理的に判断・表現ができる 【主体的に学習に取り組む態度】 授業に主体的に参加し、課題に対して適切に対応し、提出物を提出できる	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

年間授業計画 様式

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教 科： 保健体育 科 目： 保健

単位数： 1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 現代高等保健体育・図説現代高等保健 ）

教科 保健体育 の目標：

【知 識 及 び 技 能】保健や体育で得た知識と技能を活用し、生涯にわたり率先、また適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】社会や健康、自己の課題を発見し、適切に判断・行動ができる思考力等を高める。

【学びに向かう力、人間性等】自己の体力や健康について課題を見つけ、課題解決に向けて主体的に取り組む。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
主体的に学んだ知識や技能を実生活で生かし、情報活用能力を育む。	個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見できる。	課題の解決に向けた学習に主体的に取り組む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 【知識及び技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面，行動面などの変化に関わり，健康課題が生じることがあることについて，理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について，習得した知識を基に，心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために，性に関わる情報を適切に整理している。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面，心理面，行動面などの変化に関わり，健康課題が生じることがあることについて，理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について，習得した知識を基に，心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために，性に関わる情報を適切に整理している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について，課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。				

	に性に関する情報を適切に整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。			○	○	○	2
	3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 【知識及び技能】 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6

6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 【知識及び技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【学びに向かう力、人間性等】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
定期考査			○	○		1
8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 【知識及び技能】 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要で	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変わってきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用				

	・ 働く人の生活や産業活動において、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・ 働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 ・ 労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 ・ 労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 労働災害と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。					4	
2 学期	1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかえある対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 【知識及び技能】 ・ 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・ 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 【学びに向かう力、人間性等】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・ 教科書、プリント、パワーポイント等 ・ 一人1台端末	【知識・技能】 ・ 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・ 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 【主体的に学習に取り組む態度】 環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。				6

5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 【知識及び技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 【学びに向かう力、人間性等】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・食品と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てている。 【主体的に学習に取り組む態度】 食品と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1
7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 様々な保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加 【知識及び技能】 ・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。	・教科書、プリント、パワーポイント等 ・一人1台端末	【知識・技能】 ・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【主体的に学習に取り組む態度】 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、				

1 期	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	バスケットボール（男女） ・パス練習の応用 ・シュート練習の応用 ・オフェンス練習の応用 ・ディフェンス練習の応用 ・ゲーム練習 ・実技テスト	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	10
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	水泳（男女） ・4泳法習得のための練習 ・長く泳げるようにできる練習 ・実技テストに向けての個人練習	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	4
2 学 期	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	水泳（男女） ・4泳法習得のための練習 ・長く泳げるようにできる練習 ・実技テストに向けての個人練習 ・実技テスト	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	5
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	バレーボール（男女） ・リエンテーション（種目の特性、安全面の留意点及び施設の使用方等について説明。 ルール説明） ・トス練習 ・レシーブ練習 ・サーブ練習 ・スパイク練習 ・ブロック練習 ・ゲーム練習 ・実技テスト	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	10
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	卓球（男） ・基礎打ちから応用練習 ・パートナーとの連携を考えた打球コース ・サービスからの3球目攻撃 ・レシーブからの4球目攻撃 ・ゲーム練習	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	10
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。	ダンス（女） ・エアロビクス運動の習得（回す、屈伸、跳ぶ、ステップ、倒す、バランス、波動、連続した動きなど）	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。				

	【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	きなど) ・創作ダンス発表のための個人練習 ・創作ダンス発表のための班練習	【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	シャトルラン・持久走（男女） ・シャトルラン	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	5
3 学 期	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	シャトルラン・持久走（男女） ・シャトルラン	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	5
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	体育館棟で球技	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	8
	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨む。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励む。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組む。	体育理論（男女） ・健康の保持増進に寄与するトレーニング理論 ・生涯スポーツの取り組み方	【知識及び技能】 練習で得た技能を最大限に発揮し、実技の試験に臨むことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 実技練習時にポイントを理解し、各自の課題に向け練習に励むことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 率先して授業に参加し、安全に配慮して運動に取り組むことができる。	○	○	○	3
							合計
							70

年間授業計画 様式例

高等学校

令和7年度（2学年用）

教科 芸術

科目 音楽Ⅱ

教科：芸術

科目：音楽Ⅱ

対象学年組：第2月学年

1組～7組

使用教科書：（MOUSA2

教科 芸術

の目標：芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。		
【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う		
科目	音楽Ⅱ	の目標： 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする		個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
		主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしてい
		く態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現				評価規準	知	思	態	時配 数当
			歌	器	創	鑑					
1 学期	音楽と他の芸術との結びつきを考え表情豊かに歌おう 【知識及び技能】言葉の特性と内容に応じた発声との関わりについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、攻勢を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持って歌唱する。 【学びに向かう力、人間性等】ミュージカルの内容と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。	「校歌」 ミュージカルについて 「Sound of Music」 （鑑賞） 「ドレミの歌」 （合唱） 「エーデルワイス」 （器楽） 「すべての山に登れ」 （独唱） 「もうすぐ17歳」 「私のお気に入り」 （重唱）	○	○		○	【知識及び技能】言葉の特性と歌詞に応じた発声との関わりについて理解している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、攻勢を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 【学びに向かう力、人間性等】ミュージカルの内容と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	8
	表現を意図的に考えてギター、キーボードを演奏しよう 【知識及び技能】曲想とギター、キーボードのの音色や奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表現する。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもって表現する。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギター、キーボードの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。	エーデルワイス（器楽） ギター奏法の基本 第三の男 海の見える街 夢の中へ	○	○	○	○	表現を意図的に考えてギター、キーボードを演奏しよう 【知識及び技能】曲想とギター、キーボードのの音色や奏法との関わりについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表現している。 【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもって表現している。 【学びに向かう力、人間性等】曲想とギター、キーボードの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組んでいる。	○	○	○	20
	音楽を形作っている要素に注目して、曲の良さや美しさを探ろう 【知識及び技能】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについてを理解する。【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴く。【学びに向かう力、人間性等】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、及び音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。	リピートの魔術 ボレロ ブルックナー 交響曲第4番				○	【思考力、判断力、表現力等】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、攻勢を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現意図を持って演奏している。【主体的に学習に取り組む態度】曲想と手拍子など音色や奏法との関わり、他者との調和を意識して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	コード進行をもとに工夫して編曲し、発表しよう 【知識及び技能】音を連ねたりした	「エーデルワイス」 「私のお気に入り」					【知識及び技能】音を連ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージとかかわらせて理解し				

[illegible]

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科

美術Ⅱ

教科：美術

科目：美術Ⅱ

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（美術 2

教科 美術

の目標：

【知識及び技能】西・東洋美術史について視座を深めながら、立体、平面の制作における各種技能を深める。

【思考力、判断力、表現力等】イラストやデザイン立案に関する思考力を高め、色彩やデッサンのおいての表現力を培う。

【学びに向かう力、人間性等】講義及び作品発表の際の姿勢、制作後の美化の時間において協力し合う人間性を身につける。

科目 美術Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

一年生の時に習得した知識や技能を応用的な作品に使い、より高いクオリティー作品作りを目指す。

一年生の時より、より実社会に根差した課題に対し、思考力と判断力を駆使した問題解決能力の高い作品を起案する。

講義及び作品発表の際の姿勢、制作後の美化の時間においてクラス内で協力し合う人間性を継続する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 野外デッサン 【知識及び技能】 「見ること」の意味を学ぶ	・学校の敷地内にある雑木林や自転車置き場を歩き、見えたものをスケッチブックに描きこんでいく。	【思考・判断・表現】 輪郭線だけでは表現しにくいモチーフの森羅万象を工夫を持って捉えられたかどうか		○		2
	B 和文フォントのレタリング 【知識及び技能】 和文フォントの基礎を理解し、既成フォントで自分の名前をレタリングする	・和文フォントのルールを理解する。 ・明朝体とゴシック体の違いを理解する。 ・明朝体で名前をレタリングする。（モノクロ着彩）	【知識・技能】 明朝体のルールを理解し、美しいアウトラインを制作したうえで、平筆によるべた塗りを丁寧に仕上げられたかどうか	○			6
	定期考査						
	C 欧文フォントのレタリング 【知識及び技能】 欧文フォントの基礎を理解し、既成フォントで好きな言葉をレタリングする	・欧文フォントのルールを理解する。 ・欧文フォントで好きな言葉をレタリングする。（カラー着彩）	【知識・技能】 欧文フォントのルールを理解し、美しいアウトラインを制作したうえで、平筆によるべた塗りを丁寧に仕上げられたかどうか	○			6
	D プライベートロゴタイプ 【知識及び技能】 レタリング技術の完成度を高める 【思考力、判断力、表現力等】 オリジナリティにあふれた作品を起案する 【学びに向かう力、人間性等】 完成に向けて努力する 定期考査	・「将来の仕事」を想定して、その詳細について言語化する。 ・言語化した「将来」について起業した際の会社名を考える。 ・業務内容に基づいて、「会社名」のロゴデザインを起案し、制作する。	【知識及び技能】課題BC で学んだ技術の完成度を高められたかどうか 【思考力、判断力、表現力等】 オリジナリティにあふれた作品を起案できたかどうか 【学びに向かう力、人間性等】 完成に向けて努力できたかどうか	○	○	○	8
2 学 期	E プロダクトデザイン 【思考・判断・表現】 立体について思考を深める【主体的に学習に取り組む態度】グループディスカッションの能力やプレゼンテーションの能力を培う	・「この世にまだ生まれていない工業製品」をテーマにグループごとに企画立案し、プレゼンテーションする。	【思考・判断・表現】 社会への観察と思考を深め、必要とされる商品を企画立案できたかどうか【主体的に学習に取り組む態度】グループ内でのディスカッションを盛りあげたり取りまとめたってきたかどうか。プレゼンテーションの場で協働できたかどうか	○		○	4
	F スプーン制作 【知識・技能】 刃物等を安全にあつかう 【学びに向かう力、人間性等】 完成に向けて努力する	・与えられた木材から切り出せるサイズの使いやすいスプーンを起案する。 ・起案したスプーンを鋸等で切り出し、ヤスリで丁寧に仕上げる。	【知識・技能】 刃物等を安全に扱い、使いやすいスプーンができたかどうか【学びに向かう力、人間性等】 ヤスリ等で細部が丁寧に仕上がられたかどうか		○	○	26
3 学 期	G 絵本のアイデア 【思考・判断・表現】 既存のストーリーもしくはオリジナルストーリーによる絵本の構成を考える	・好きな物語、歌詞などから4場面を選び、それぞれの場面にふさわしいイラストを考え、絵本の台割を作る。	【思考・判断・表現】 既存のストーリーをオリジナルの視点で捉えなおし、見やすい画面に構成できたかどうか。もしくは、オリジナルストーリーによる個性的な絵本の構成を考えられたかどうか		○		6
	H 絵本の制作 【知識・技能】 テーマに適した画材や表現技法を選び、丁寧に作画する 【学びに向かう力、人間性等】 時間の限界まで、クオリティーを再上限に高める努力をし続ける	・制作した台割に沿って、本番用の絵本台紙に、イラストと言葉のレイアウトを考えて下描きする。 ・下描きに沿って、画材や表現技法お選び制作し、絵本を完成させる。	【知識・技能】 テーマに適した画材や表現技法を選び、丁寧に作画できたかどうか 【学びに向かう力、人間性等】 時間に追われつつも、クオリティーを再上限に高める努力をし続けられたかどうか	○		○	12
							合計 70

2 期	臨書 半切に制作 【知識及び技能】 各々が選択した古典に基づく基本的な用筆・運筆の技法、線質、字形や構成を生かした表現を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成をについて工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組み書に対する感性を豊かにする。	行書の多彩な表現を学ぶ 集王聖教序臨書 温泉名臨書 祭姪分稿臨書 北宋の三大家	【知識・技能】 古典の書体や書風と用筆、運筆について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 歴史的背景や内容を理解している。 【思考・判断・表現】 書体や書風に則した用筆、運筆、字形や構成について構想し工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に鑑賞と表現の学習活動に取り組もうとしている。より良い作品を作ろうと努力している。	○	○	○	18
	漢字かな交じりの書の学習 【知識及び技能】 目的や用途に則した表現、漢字と仮名の調和した技能を身に着ける。 【思考力、判断力、表現力等】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさなど工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 幅広い表現や鑑賞の学習活動に主体的に取り組み書に対する感性を豊かにする。	漢字かな交じりの作品の鑑賞 自分で撰文し作品制作 作品発表	【知識・技能】 漢字かな交じり書について理解している。 基本的な用筆、運筆の技法、線質、字形の構成を生かした表現を身に着けている。 【思考・判断・表現】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成を工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 主体的に鑑賞と表現の学習活動に取り組もうとしている。より良い作品を作ろうと努力している。	○	○	○	16
3 学 期							
							合計
							70

年間授業計画 様式例							
高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 外国語 科目 英語コミュニケーションⅡ				単位数： 4 単位			
教科： 外国語 科 目： 英語コミュニケーションⅡ							
対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組							
使用教科書：（BLUE MARBLE English Communication Ⅱ）							
教科 外国語 の目標：							
【知識及び技能】英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの							
【思考力、判断力、表現力等】領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現」を一体的に育成す							
【学びに向かう力、人間性等】るとともに、その過程を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を育成する。							
科目 英語コミュニケーションⅡ の目標：							
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】		【学びに向かう力、人間性等】			
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる。		コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。			

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
	Lesson 1 Leadership in Modern Times 【知識及び技能】新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	・現代社会において求められるリーダーシップとは ・強調構文 / 倒置 / 省略 / 無生物主語構文	○	○	○	○	○	a. 各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 b. 本文の内容（現代社会において求められるリーダーシップ）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○	12
	Lesson 2 The Diversity of Traditional Houses 【知識及び技能】新出語やKey Phrases, Key Languageの言語材料、本文の論理展開を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。 【学びに向かう力、人間性等】各Part 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとしている。	・世界の伝統家屋の特徴と、それらが現在果たす役割 ・未来完了形	○	○	○	○	○	a. 各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 b. 本文の内容（世界の伝統的な住居）について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話す／書くことができる。	○	○	○	15

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	聞	読	話〔や〕	話〔発〕	書	評価規準	知	思	態	〔当〕時数
1 学 期	単元 Lesson 1 【知識及び技能】助動詞の表現（used to should had better would など） 【思考力、判断力、表現力等】好きな場所を紹介する発表の原稿 【学びに向かう力、人間性等】これまでの経験についての会話	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1台端末の活用 等	○		○		○	自分の経験について、情報や自分の考え、気持ちなどを伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解している。 予定について、情報や自分の考え、気持ちなどを伝えるために必要となる表現の意味や働きを理解している。	○	○	○	5
	単元 Lesson 2 【知識及び技能】印象深かった授業について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝え合うための多様な語句や文を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】お互いによく理解できるように、印象深かった授業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを理由とともに即興で詳しく合っている。 【学びに向かう力、人間性等】	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等			○	○	○	最新のものについて、情報を整理し、多様な語句や文を用いて詳しく話して紹介する技能を身に付けている。 お互いによく理解できるように、週末の予定について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合おうとしている。	○	○	○	8
	定期考査								○	○	○	1
	単元 Lesson 3 【知識及び技能】いろいろな科学技術や将来の社会の状況と職業などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】いろいろな科学技術について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】社会の状況と職業について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書くことができる。	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1台端末の活用 等	○		○		○	印象深かった授業について、受動態や、授業で行われている内容を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う技能を身に付けている。 読み手によく理解してもらえるように、贈り物について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、論理の構成や展開を工夫して詳しく書いている。	○	○	○	8
	単元 Lesson 4 【知識及び技能】日本の文化について、不定詞（進行形・受動態・完了形不定詞、原形不定詞）や日本文化を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを即興で詳しく伝え合う。 【思考力、判断力、表現力等】日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを詳しく伝えるための多様な語句や文を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】知覚動詞、使役動詞の特徴やきまりに関する事項を確認し、それを用いて身	・指導事項 会話表現の習得 ・教材 教科書 プリント ・一人1台端末の活用 等					○	日本の文化について、知覚動詞、使役動詞や日本文化を表す表現などを用いて、情報や自分の考え、気持ちを整理し、詳しく発表する技能を身に付けている。 聞き手によく理解してもらえるように、日本の文化について、情報や自分の考え、気持ちを整理し、多様な語句や文を用いて詳しく発表している。	○	○	○	7

[illegible]